

本田における成績では、アキホマレの葉いもち抵抗性は、ササニシキとほぼ同程度かわずかに強く、また、穂いもち抵抗性は、トヨニシキとほぼ同程度であった¹⁾。(表 4) これらから、チヨホナミのいもち病抵抗性の特徴と程度は、

表 4 アキホマレの普及見込地帯における発病程度の比較

(1) 葉いもち

比較品種	比較品種との差の平均	比較品種と比べて発病程度が		
		多い場合	同じ場合	少ない場合
トヨニシキ	+ 0.6	12	18	0
ササニシキ	- 0.3	2	18	6

(2) 穂いもち

比較品種	比較品種との差の平均	比較品種と比べて発病程度が		
		多い場合	同じ場合	少ない場合
トヨニシキ	0	3	22	5
ササニシキ	- 0.3	0	12	16

注.(水野ら 1982. から作表)

アキホマレと類似しているといえる。

アキホマレはいもち病常発地帯の秋田県において、葉いもちと穂いもちの抵抗性が、ともに強いトヨニシキを対象として奨励された。チヨホナミの宮城県における普及見込み地帯は、秋田県におけるアキホマレの普及見込み地帯ほどいもち病の発生は多くはないと考えられるが、チヨホナミの栽培に当たっては、葉いもちに対して注意が必要であると思われる。

引用文献

- 1) 水野 進, 堀内久満, 石川武之甫, 寺田和弘, 福田忠夫, 林 巖. 1982. 水稻新品種の記載. [IX] アキホマレ. 福井県農業試験場報告 19:51-73.
- 2) 瀬古秀生. 1979. 続・稲の品種改良. 全国米穀配給協会. p. 1-36.
- 3) 進藤敬助. 1987. 水稻いもち病抵抗性の向上と安定化技術の確立. 3. 葉いもち抵抗性と穂いもち抵抗性の関係. 農林水産技術会議事務局. p. 54-63.